



国語科 第3学年 単元名「しょうかいするよ!〇〇はこんな人!」

(教材 モチモチの木 東京書籍)

単元の目標

- ◆様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。【知識及び技能】(1)オ
- ◆登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりとを結び付けて具体的に想像することができる。【思考力、判断力、表現力等】C 読むこと エ
- ◆言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

本単元では、「登場人物の性格を想像する」、読むことの力の育成を目指していました。また、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、子ども達が自ら学びを進めていく学習に挑戦しました。教材研究会では、「子どもが学び進めていくための単元計画はどうか」「そのための手立てや工夫に何が必要か」、参画いただいた先生方と協議を行いました。

四万十市立中村小学校
教材研究会 10月8日(火)
授業研究会 11月29日(金)

中村小学校では、子どもが主体的に学びに向かう「めあて」の設定、根拠のある「自分の考え」、共有による「学びの深まり」を大切に、児童を主体にした主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを進めています。

学習過程 → 構造と内容の把握 → 精査・解釈 → 考えの形成 → 共有

単元の流れを具体にする

- ・学習過程の「構造と内容の把握」の2時間の中で見方・考え方を働かせて行動や気持ちをしっかり捉えることが大切であり、「精査・解釈」を通して「考えの形成」「共有」の中でどのような考えをもち、話をするとよいのか考えておく必要がある。
- ・自分で学びを進めるためには、学習の目的、ゴールを子どもと共有しておくことが必要ではないか。

対話、共有の場で子どもをつなぐ

- ・性格について子どもによって根拠がちがうため、そこを表現させたい。
- ・場面の移り変わりで性格を捉えていなければ、友達の考えを共有できるようにすることも必要ではないか。(クラウド活用)

めあて、振り返り

- ・スプレッドシートなどを活用し、めあてや振り返りを視覚化しておく。(他者参照)
- ・振り返りを次の学習につなげる。

思考ツールの活用

- ・思考ツールは、慣れていないと使えない。様々な場面で使うようにし、有効性や効果を実感させておく。

板書

- ・付けたい力、ゴールを示すことで常に意識させる。
- ・学び方を示す。
- ・子どもの学びの中で、必要なキーワードを示す。

*授業者:小松 真衣 教諭

子どもが自ら学びを調整しながら進めていくには、単元のはじめに、学習の目的や課題、目指すゴールを子どもと共有しておくことが大切です。また、子どもの活動や思考の流れをイメージしておくことで、どこに着目し、どのように考えるのかといった「見方・考え方」を働かせる手立てを考えたり、子どもの考えをどのように引き出し、共有させていくのか支援の仕方につなげたりすることができます。

子どもが自ら学び進めていくためには?

本時の目標(4時間目/全9時間)

場面の移り変わりと結び付けて複数の叙述から、登場人物の性格を想像することができる。

学習過程 → 構造と内容の把握 → 精査・解釈 → 考えの形成 → 共有

本時では、教材研究会、子どもの実態を踏まえ、学習過程の全てを子どもに任せるのではなく、「精査・解釈」の場面において学び方を選択し、学習を進めていくことにしました。子ども達は、登場人物の性格を想像していくために、「マイめあて」を立て、共有することで、この時間の学び方を自分で決めて学習を進めていきました。

複数の叙述をもとに豆太の性格をタブレット端末を活用してクラゲチャートに整理する子どもの姿

point① 登場人物の性格を想像する

場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像するためには、それぞれの登場人物の境遇や状況を把握し、物語全体に描かれた行動や会話に関わる**複数の叙述を結び付けて読む**ことが重要である。一つの叙述だけではなく、**複数の叙述を根拠に**することで、より具体的に登場人物の性格を思い描くことができる。(学習指導要領解説 3・4年生)

本時においては、場面の移り変わりの中で、子ども達は、根拠となる叙述を取り出しながら、豆太について想像した性格を考える姿が見られました。また、どこからその性格だと考えたのかを教師が問うことで、子ども達は叙述にもとって考える姿も見られました。「言葉による見方・考え方」を働かせるためには、教師の発問や問い返しが大切ですね。

point③ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のために

個別最適な学びを大切に、本時は「マイめあて」の達成に向けて個人で学びを進めるか、友達と学びを進めるか、学び方を自己決定させました。一人で学びを進める子どももいましたが、個別で学ぶことが孤立した学びにならないように協働的な学びとの一体的な充実を図ることが大切です。そのために、同じ叙述でもちがう性格を想像した子どもの考えを見取り、取り上げるなどしながら自分の学びを深めることにつなげていく時間も学習過程の中で取り入れていきたいですね。

参加者の声

新しい形の授業を初めて参観しました。個別最適な授業をつくっていききたいと思います。クラウドを通して児童が学び合える活動を仕組むことも勉強したいと思います。

単元づくりや授業づくりを行う際には、その時間で身に付けたい資質・能力からそれに行っていくことが大切だと改めて感じました。その中で個別最適な学びと協働的な学びを充実していけるように教科の本質を明確にもち、ICT機器等の効果的な活用も考えながら授業を展開していきたいです。

[見方・考え方]
会話文や地の文を根拠にしながら、登場人物の性格を想像している。

豆太は、どのような性格なのだろう?

会話

行動

地の文

気持ち

こわがりや弱虫はちょっとちがうと思う。弱虫は、自信がないってことかな。

ぼくは、こわがりと思うな。

言葉にこだわっている子どもの姿

point② 語彙を豊かにする

様子や行動、気持ちや性格を表す語句とは、事柄や人物などの様子や特徴を表す語句、人物などの行動や気持ち、性格を表す語句を指す。これらを話や文章の中で使うことを通して、**自分の語彙として身に付けていく**ことが重要である。(学習指導要領解説 3・4年生)

子どもの中には、性格を表す語句を集めたノートを見返したり、教科書の「言葉の広場」から考えたりする姿が見られました。このような姿が繰り返されることで語彙が増やされ、話や文章の中で使える生きて働く知識・技能となっていくと思います。